

平成 26 年度光産業技術標準化国際シンポジウム

平成26年度の光産業技術標準化シンポジウムは、「レーザ機器の安全・安心—最新のレーザ安全規格—」をテーマに、競輪のサポートを受けて、国際シンポジウムとして、欧州のレーザ安全の権威を迎へ、平成26年11月10日（月）、六本木アカデミーヒルズにて、70名を超える参加者の下、盛大に開催された。



会場風景

当協会専務理事の小谷泰久が開会挨拶において、本日の標準化シンポジウムがレーザ機器の安全・安心に関する国際シンポジウムとして3回目の開催であり、1回目は東京で、2回目は大阪で、3回目の今回は再び東京で開催することを紹介した。また、今年は、レーザ安全の基本規格がIECにおいては5月に、JISにおいては9月に改正されたので、IEC規格については欧州からKarl Schulmeister博士、JISについては橋新裕一教授を招待し、それぞれの規格の解説をお願いしたことを紹介した。



小谷泰久専務理事



橋新裕一教授



Karl Schulmeister博士

最初の講演者である近畿大学の橋新教授には、「レーザ安全の日本規格—JIS C 6802最新版」と題して講演をしていただいた。橋新教授は、JIS C 6802（レーザ製品の安全基準）の原案作成委員会の委員長であり、またIEC/TC 76/WG 4（医用レーザ装置の安全性）の委員として活躍されている。それらの立場から、レーザ製品の安全基本規格JIS C 6802の今回の改正における主な変更点及び変更によって影響を受けるレーザ製品について、わかりやすく講演をしていただいた。トピックスとして、レーザポインタのパワー測定方法、

刺青除去などについても紹介していただき、聴講者からは、光・レーザ分野の安全規格は、継続して改正されているのでこれからも注意していかなければならぬことが良くわかったとの声が多かった。

続く講演者のオーストリアSeibersdorf 研究所のKarl Schulmeister 博士からは、「レーザ安全の国際規格－IEC 60825-1最新版」と題して、「その1：概要」、「その2：主な変更点」、「その3：網膜の熱的限界の変更」の3部に分けて講演をしていただいた。Schulmeister 博士は、IEC/TC 76/WG 1（光放射の安全性）のセクレタリとしてIEC 60825-1改正のエディタの中心となって活躍された。また、ICNIRP（国際非電離放射線防護委員会）の委員として人体への最大許容露光量値の策定にかかわっておられる。これらの立場から、レーザ製品の安全に関する基本国際規格IEC 60825-1の今回の改正の要点をわかりやすく解説していただくとともに、特にSchulmeister 博士の専門である網膜の露光限界値について、最新の検討結果とそれがどのように規格に組み入れられたかを詳細に解説していただいた。

全体を通しては、盛りだくさんの内容であったが最新の安全規格の動向を学ぶ非常に良い機会であったという声が聴講者から聞かれた。また、このような企画を続けてほしいという意見もあり、今後もレーザ安全規格の最新動向を紹介できるような標準化シンポジウムが実現できるよう検討していきたい。

